

平成26年度 徳倉小学校区きずなづくりトーク トークまとめ

5月27日(火)に開催された「徳倉小学校区きずなづくりトーク」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。トークのまとめができましたので、送付いたします。

なお、徳倉小校区では、【防災訓練】【子どもの健全育成】【高齢者】の3つの分野について、意見交換や情報共有が行われました。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話983-2708)



皆さん、ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
幸原町自治会	エコリーダー	徳倉幼稚園PTA
徳倉第1町内会	環境美化推進委員会	徳倉小学校
徳倉第2町内会	民生委員・児童委員	徳倉小学校PTA
徳倉第3町内会	幸原幸栄会	子ども会連合会
徳倉第4町内会	菊寿会	地域包括支援センター
交通安全母の会	消防団第4分団	地域づくりコーディネーター

※当日参加者 23名

アンケート：分野ごと最も話したいテーマについて、参加者の希望を伺いました。



【会場アンケート結果】

	検討テーマ
防災訓練	①訓練実施時期について考えよう!..... 1人 ②要援護者をどのように助けるか?..... 10人 ③子どもや無関心な住民の参加率を上げるためには?..... 10人 ④その他..... 2人
子どもの健全育成	①住民同士のコミュニケーションの機会を増やそう!..... 14人 ②地域で子どもたちを見守ろう!..... 9人
高齢者	①高齢者同士のコミュニケーションの機会を増やそう!..... 7人 ②見守りの協力体制を進めるには?..... 13人 ③その他..... 1人

下記のテーマにもとづいて発言された内容について、現状・課題を「今まで」、課題解決につながる取り組み・アイデアを「これから」に分類し、まとめました。（○：参加者発言 ●：市長発言）

【防災訓練】

今まで	これから
テーマ① 訓練実施時期について考えよう！	
※時間の都合により割愛	
テーマ② 要援護者をどのように助けるか？	
<p>○老人会は、老人会に入っていない方の情報は全く持っていない。災害時、どのように助け合うか、関心もあるし非常に心配しているが、老人会としては手の打ちようがない。</p> <p>○老人会の会員同士は付き合いがあるが、近隣との付き合いはないに等しい。高齢者は近隣の方に迷惑をかけたくないという意識を持っている。支援者と援護される側にギャップがあって、なかなか接点ができない状態。</p> <p>○要援護者にも相当ばらつきがある。申請すればみんな要援護者になる感じで、若い人もいるし年配の方もいる。災害時、誰を優先すべきか、皆にどうやって知らせればいいのか、整理がつかない状況。</p> <p>○要援護者については、組織体制に関係してくるし、個人情報の問題にもなってしまう。今の町内会組織は、どうしても「紙面上の組織」という状態だと感じる。</p> <p>○民生委員が要援護者の調査をする時、「情報が組長まで伝わるが、それでも構わない」と了承を得ている方を要援護者になっている。</p> <p>●災害対策基本法が改正し、要援護者リストを作成し、サポート方法を考えていくことになった。</p>	<p>○全町内が一度に壊滅してしまうような想定ではなく、町内の一部の地域で土砂崩れや浸水が発生したならば、要援護者を救助しに行くことは可能だと思う。その場合、誰がどこから救助に行くのか考える必要がある。</p> <p>○きちんとした組織体制を作るには、コミュニケーションをとり、「向こう三軒両隣」を作り上げていかなければいけないと思う。</p> <p>○要援護者を全員救助するには、「お年寄りはどこにどれだけいて、町内にこんな問題がある」と近隣に知らせることが必要。</p> <p>○町内で困っている方の状況を、組長レベルまで把握できる組織体制が必要。それには日ごろの付き合いが大切になってくる。</p> <p>●要援護者リストは、「救助してほしい方」と、「救助は必要ない方」の2種類ある。「救助は必要ない方」のリストは封をして、災害時のみ開封することになっている。</p>
テーマ③ 子どもや無関心な住民の参加率を上げるためには？	
<p>○組によっては組長しか出てこないところもあるなど、訓練参加にばらつきがある。関心が薄い。</p> <p>○学校の取組みには参加カードなどがある。</p> <p>○親への呼びかけをもう少ししっかりした方がいいのではないかと感じている。</p>	<p>○幸原町自治会では、今年の訓練に各組最低3名参加するよう、声かけをする予定。総会や委員会などでも話し、多数の参加を募りたい。</p> <p>○親が参加するような意識付けも大事。家庭においても関心を持ってもらうことが大切だと思う。</p> <p>○親が関心を持ち、「日ごろから備えないと災害時困ってしまう」と、親身に子どもに伝えることができれば、少し違うのではないかと感じる。</p>

今まで	これから
<p>○アパートが多い地区で、訓練参加率が悪かった。また訓練は9月という意識があり、12月開催を把握していなかった。</p> <p>○昨年、徳倉第2町内会では「黄色いハンカチ作戦」を実施。町内を3地区(1地区約10組)にわけ、「黄色いハンカチ」を含めて参加率を出した。町内全体では20数%なので高くないが、ある地区では50%ほどになった。</p>	<p>○呼びかけ方を一工夫する必要がある。</p> <p>○高学年は自分から動けるので、子ども会や学校から訓練参加の呼びかけがあるといい。</p> <p>○「黄色いハンカチ」掲示は、訓練に参加していることと同じ。参加率50%はすごいこと。そのうち、実際に訓練に参加するきっかけになると思う。「黄色いハンカチ」は防災意識向上の面で効果があると思う。</p>
テーマ④ その他	
<p>○今年度、防災組織の体制整備が非常に難しかった。技術もノウハウもない方を入れていいものかと思ひ、技術のないところは班を作らなかった。しっかりした班を作るにはどうしたらいいのか。</p> <p>○市で通知している「班の役割」「やってほしいこと」を見ると、すごく技術力がある。その技術がないのにやらなくてはいけない。市はどうやって技術力を高めようとしているのか、市の研修や教育はどうなっているのか。</p> <p>○国で地震を予知し、その3カ月前に各町内で訓練をするような方向にできないか。そうすれば危機感もあり、参加する方も増加すると思う。</p>	<p>○防災の組織体制について話し合うべきだと思う。</p> <p>○市の考え方と町内会の実力にギャップがあるように思える。そのギャップを埋めていき、体制を作る必要がある。</p> <p>●県の「ふじのくに防災士養成講座」に参加する場合、補助金が出る。また、市ではもう少し簡単な人材養成講座を実施している。ぜひ町内で参加を呼びかけてほしい。</p> <p>●地震予知はたいへん難しい。訓練日の設定は2つある。9月1日は従来、予知できることを前提にした訓練。12月第1日曜日の「地域防災の日」は突発的地震の訓練を行う。災害は忘れたころにやってくるので、そういう意識が大切。</p>

【子どもの健全育成】

今まで	これから
テーマ① 住民同士のコミュニケーションの機会を増やそう！	
<p>○地域で行事を多くやっているところはつながりが深い。特に徳倉3丁目などは年間を通して色々な行事を実施している。</p> <p>○祭りやスクールガードなどの活動を見ていると、地域のつながりができている、または作ろうという意識の高い方が多いと感じる。あいさつも定着しているのではないかと思う。</p>	<p>○地域につながりがないと、いざという時に何もできない。何でも付き合いがあると参加しやすい。コミュニケーションは重要。</p> <p>○小学校を、コミュニケーションを図る一つの場としてぜひ使ってほしい。子どもは地域、社会の宝なので、学校を一つのきっかけとしてくれたらいい。</p>
テーマ② 地域で子どもたちを見守ろう！	
<p>○最近子どもや大人の声かけ・あいさつが多くなった。中学生のあいさつは少ないが小学生は多い。</p> <p>○低学年のうちはあいさつできなくても、3、4年生になるとあいさつするようになるので、小学校でしっかり教育してくれているのだと思う。</p> <p>○年4回交差点で交通整理を行なっているが、子</p>	<p>○各町内で日常的にお互いに声をかけあうといい。子どもの健全育成につながると思う。</p> <p>○なるべく外へ出て、清掃活動などから始めれば、それが声かけの機会になる。</p> <p>○学校で誰にでもあいさつするよう、常に言い続</p>

今まで	これから
<p>どもからの元気な声は比較的少ない。不審者対策や家庭の問題もあると思う。</p> <p>○街道歩きが趣味。先日、自転車に乗った中学生が見ず知らずの私にしっかりあいさつしてくれた。声をかけ合うようにしている地域の子だと思う。地域によってあいさつの状況はだいぶ違う。</p> <p>●「いかのおすし」という防犯標語があり、子どもたちは不審者に付いていかないよう警察から教えられている。</p>	<p>けてほしい。不審者対策は、知らない人に付いていかないことをはっきりさせるといいと思う。</p> <p>○地域全体でお互いに声をかけることから始めれば、子どもの健全育成につながっていくのではないか。</p> <p>●校区全体であいさつしていくにはどうしたらいいか、検討してほしい。</p>

【高齢者】

今まで	これから
<p>テーマ① 高齢者同士のコミュニケーションの機会を増やそう！</p>	
<p>○幸原には 75 歳以上の方が 200 人くらいいると思う。幸原幸栄会の会員は 40 名。会に入っている人は、普段から健康やスポーツなどの指導をお互いに行なっている。</p> <p>○菊寿会には 46 名在籍。高齢という意識はない。通院している割には元気な方が非常に多い。</p> <p>○3 月に第 4 分団フェスティバルがあり、徳倉八乙女会の方に徳倉第 6 町内会として出ている。</p> <p>○コミュニティカフェの補助事業は毎年やるのか。計画に時間がかかるので 1 年間検討したい。</p>	<p>●市内の老人クラブの数が 59⇒54 に減少している。その一方で高齢者は増えている(75 歳以上が約 13,000 人、65 歳以上は約 28,500 人)。健康寿命を延ばすことが大事。</p> <p>○高齢の方も、地域のイベントに多く参加されたいと思う。</p> <p>●若松町のコミュニティカフェ、芙蓉台の食事会などを参考に、自分たちでコミュニケーションの場を作っていってほしい。補助金も出る。</p> <p>●来年も募集をかける。2 年間、立ち上がりの経費の補助をする制度。そのあとは自主的に運営を行なっていくようにしてほしい。</p>
<p>テーマ② 見守りの協力体制を進めるには？</p>	
<p>○民生委員や地域の方々が、「心配な方がいる」と地域包括支援センターに連絡してくれる。見守り体制はできているが、まだまだマンパワーが足りない状況。高齢者同士の見守り体制は、かなり整ってきている。</p> <p>○昨年、敬老金を歩いて配布した。地図で調べて会うと、どこにどんな人がいるかよくわかった。</p> <p>○母親は高齢だが、3 カ月ほど住み込みで働いている。そういった派遣先には緊急連絡網がない。</p>	<p>○要援護者リストを活用し、要援護者がいたら各組長から隣 2 軒にお願いをして、日ごろから支援してもらうのが一番いいのではないか。</p> <p>○個人情報なのでだめかもしれないが、そこに高齢者がいるとすぐわかるよう、高齢者の家庭にマークをするといいいのではないか。</p> <p>○今年の敬老金配布は、組長や民生委員と一緒に回れるといいと思う。</p> <p>○企業に、単身高齢者で働いている方の登録を義務付ける体制をつくってほしい。</p>
<p>テーマ③ その他</p>	
<p>○①「高齢者同士のコミュニケーション」も②「見守りの協力体制」も両方大事。</p>	<p>○「高齢者同士のコミュニケーション」を増やしていくと、高齢者同士の見守りになり、地域の方々と「見守りの協力体制」につながっていくのかもしれない。分けて考えなくてもいい。</p>

今後の活動の参考にしてください！